

# キリスト教学研究室紀要

## 第 9 号 第 2 集

---

### —論文—

ヒックと宗教哲学の諸問題

芦名 定道 (1)

Jean Calvin 『共観福音書註解』における聖定と摂理 —受肉—

森川 甫 (19)

マイスター・エックハルトにおける知性と恩寵—ドイツ語説教9番を中心に—

下村 真代 (37)

### —研究ノート—

トレルチにおける「神秘主義」類型の意義

岩澤 武 (57)

パウル・ティリッヒのフォイエルバッハ論

—実存主義的哲学者としてのフォイエルバッハという視点から—

山崎 ひとみ (75)

あとがき

(94)

---

2021年 3月  
京都大学キリスト教学研究室

## あとがき

◆『キリスト教学研究室紀要』第9号第2集が予定通り完成した。京都大学キリスト教学専修（研究室）刊行の「研究室紀要」も、2013年度の創刊から、今回で第9号第2集を迎えたが、紀要第9号第2集を無事に刊行できたことについて、執筆者、そして編集担当者に対して、心から感謝申し上げたい。

◆京都大学のキリスト教学研究室は、教員と大学院生を中心に構成された研究者の研究共同体として運営されており、この「研究室紀要」は、キリスト教学研究室の研究内容を広く公開するとともに、所属の大学院生に論文などの執筆機会を提供することを目的としている。今回で第9号第2集、計10冊を迎えた。2020年度は、昨年の2月頃より世界的に拡大した新型コロナウイルス感染症への対応などの理由で、第9号を第1集と第2集の二つに分け、第1集を例年より半年早めに刊行し、第2集は例年通り、年度末3月の刊行となった。

査読体制の確立など、創刊当初からの懸案事項が存在するものの、当面は、大学院生の研究論文、研究ノート、書評に加え、教員（常勤と非常勤）や課程修了者による研究論文を掲載することによって、研究論集としての十分な水準が確保されるよう心がけたい。

◆2020年度のキリスト教研究室における最大のニュースは、津田謙治准教授（専門は、初期キリスト教思想・教父学と宗教哲学）が着任されたことであり、2020年度の授業はとくに充実したものとなった。今後の活躍を期待される。それに対して、わたくし芦名は、この3月で京都大学を退職することになった。長い間、関係の方々のお世話になったことに、感謝申し上げたい。

◆2020年度のキリスト教学専修では、学部卒業生5名（東直輝、高木和音、藤守麗、益子愛莉、吉澤夏生）、大学院修士課程3名（加藤良輔、澁谷遊歩、西村一輝）が、卒業論文と修士論文を提出し、それぞれの課程を修了した。それぞれの場での研鑽と飛躍を期待したい。

なお、2020年度は、新型コロナウイルス感染への対応のため、恒例の予餞会は中止となった。また、2021年度は、学部生2名、修士課程入学者2名、博士後期課程進学者2名がキリスト教学研究室に加わる予定である。

◆本紀要は、研究室のホームページ、あるいは京都大学学術情報リポジトリにおいて公開されており、基本的には電子ジャーナルとして企画されている。これまでは一定部数の印刷製本も行われてきたが、今年度の第9号からは、冊子体の印刷は行わないものとする。この電子ジャーナルによって、キリスト教学研究室の研究活動が研究室外の方々に広く知っていただけるならば、幸いである。

2021年3月

キリスト教学専修・教授  
芦名定道

2020年度・第二演習の記録

<前期>

- 6月23日：渡邊蘭子「アウグスティヌス『ヨハネ福音書説教講解』におけるキリストの癒し」  
：波勢邦生「賀川豊彦『宇宙の目的』と自然神学」
- 6月30日：平出貴大「P. ティリッヒの「宗教の根源」への問い」  
：森川甫「ジャン・カルヴァン『共観福音書註解』と「聖定の思想」」
- 7月7日：ブラジミロブ・イボウ  
「パヴェル・フロレンスキイの宗教思想における人間の変容と救済」  
：南裕貴子「フライタークの「伝道の神学」における諸宗教とキリスト教」
- 7月14日：加藤良輔「歴史的相対主義と二つの歴史——H・リチャード・ニーバー『啓示の意味』における歴史概念」  
：塩川礼佳「南原繁の批判主義的国際政治論——1927年論文第3節を読む」
- 7月21日：澁谷遊歩「マクフェイグとソスキースのメタファー論」（表題ではなく内容）  
：西村一輝「W・パネンベルク『ドゥンス・スコトゥスの予定説』における「神の自由」と「偶然性」の問題」
- 7月28日：香西信「パウロにおける Χριστός 使用の問題点の整理」  
：森喜啓一「ピーター・L・バーガーの現代キリスト教の諸問題と指針」
- 8月4日：下村真代「エックハルト『「シラ書」第24章第23-31節についての説教と講解』における<あたかも quasi>の検討—比喻の存在論—」  
：張潔「武藤一雄（1913-1995）の「信仰神秘主義」をめぐって—その一、武藤解釈におけるキルケゴールの「信仰神秘主義」—」
- 8月11日：岩澤武「「教養 Bildung」理念の問題とトレルチの「ドイツ的教養」」  
：メナチェ・アンドレス「日本史料における宣教師とキリスト教像—「邪教」を中心として—」
- 8月18日：山崎ひとみ「ティリッヒの「存在論」の取り扱い—特に、「存在論的証明 Ontological Argument」から—」  
：山中健司「矢内原忠雄の「愛国心」について（1）—「愛国心」発言・思想の時系列考察—」

<後期>

- 10月13日：ブラジミロブ・イボウ「パヴェル・フロレンスキイの思想から見た人間の救済」
- 10月20日：森川甫「ジャン・カルヴァン『共観福音書註解』と聖定」

- 10月27日：平出貴大「「神を語らなければならない（von Gott reden müssen）」の意味——研究のための準備——」  
：渡邊蘭子「アウグスティヌスにおける「高慢」と「情欲」の関係」
- 11月10日：加藤良輔「価値付ける人格の開示としての啓示——H・リチャード・ニーバー『啓示の意味』における啓示概念——」  
：塩川礼佳「南原繁の初期思想におけるカント道徳学説の問題」
- 11月17日：澁谷遊歩「「神の国」という根本メタファー：マクフェイグの隠喩神学を支えるもの」  
：西村一輝「W・パネンベルク『ドゥンス・スコトゥスの予定説』における「神の自由」の問題——第1章から第3章までの議論を中心に」
- 11月24日：香西信「ガラテヤ書3:16「子孫」のメシア解釈」
- 12月 8日：山中健司「矢内原忠雄の愛国心について（2）」  
：岩澤武「トレルチにおける「神秘主義」とその射程——準備的考察——」
- 12月15日：張潔「武藤前期の神学的宗教哲学（1）」
- 12月22日：メナチェ・アンドレス「17世紀の排耶書における宣教師とキリスト教像」  
：山崎ひとみ「ティリッヒとフォイエルバッハの投影理論：スクリーンと無限」
- 1 月 5日：下村真代「上田閑照における「経験と言葉」の考察の導入——「根源語」としての「神の子の誕生」の出来事——」
- 1 月12日：リチャーズ・ティエリ「スペインへの宣教旅行のパートナーシップがローマ書の包括的目的である」  
：森喜啓一「ピーター・L・バーガーの初期宗教論と世俗論」

<春期・大学院生研究発表会>

2021年

3月15日：日本基督教学会・近畿支部会の予行発表会。

## 『キリスト教学研究室紀要』について

以下に示す投稿規定、執筆要項は、『宗教研究』（日本宗教学会）に準じたものであるが、暫定的なものであって、随時改訂することになる。

### A. 『キリスト教学研究室紀要』論文投稿規定

1. 投稿者は京都大学キリスト教学専修の教員（常勤・非常勤）と研修員、大学院生にかぎる。なお、ODの投稿については、個別的に判断する。
2. 内容は未発表の学術論文、書評論文であること。大学院生の投稿者の場合は、第二演習での研究発表などの論文化を原則とし、修士課程の学生の投稿は書評と研究ノートに限るが、本紀要における特別企画などに応募する場合には例外的に論文投稿を認めることがある。論文と書評の採択、またこの原則についての例外的扱いについては、編集委員会（当面は芦名）が決定する。なお、研究ノートや諸報告などについても、論文や書評に準じて適宜判断する。
3. 原稿は横書き、枚数は学術論文400字詰原稿用紙50～60枚程度（注・図表等を含む）、書評論文400字詰原稿用紙15～20枚程度とする。
4. 電子データの書式は、横書き、40字×30行とし、400字詰原稿用紙での換算枚数を付記する。
5. 学術論文には欧文タイトル、氏名のローマ字表記を付記すること。
6. 稿料は支払わない。
7. 『キリスト教学研究室紀要』は基本的には電子ジャーナルとして刊行され、この号については冊子印刷は行わない。
8. 掲載された論文は京都大学キリスト教学専修ホームページと京都大学学術情報リポジトリで公開する。そのため、当該論文の複製権と公衆送信権はキリスト教学研究室に委託されるものとする。ただしこれは、執筆者本人による複製権および公衆送信権の行使を妨げるものではない。

# The Annual Report on Christian Studies

## IX - 2

### CONTENTS

#### Article

John Hick and the Philosophy of Religion

ASHINA Sadamichi (1)

Commentaires écrites par évangélistes S.Mathieu, S.Marc, S.Luc et S.Jean et la pensée d'ordonance

MORIKAWA Hajime (19)

Intellekt und Gnade bei Meister Eckhart : Basierend auf Deutsche Predigt 9.

SHIMOMURA Mayo (37)

#### Notes

The meaning of the type of “mysticism” in Troeltsch’s “The Social Teaching of the Christian Churches”

IWASAWA Takeru (57)

Paul, Tillich’s View of Feuerbach as an “Existential” Philosopher

YAMAZAKI Hitomi (75)

Afterword

(94)

March, 2021

Faculty of Letters, Kyoto University, Department of Christian Studies

Kyoto Japan